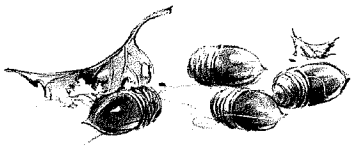
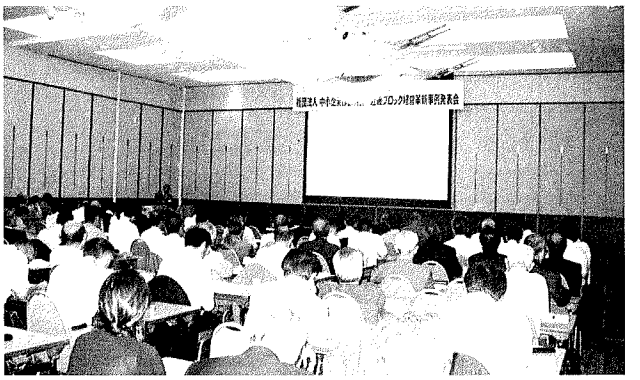
診断京都

No.77
創立45周年記念号



診断協会創立50周年・京都支部創立45周年記念事業

● 第2回　近畿ブロック経営革新事例発表会 ●



（社）中小企業診断協会近畿ブロック（福井、滋賀、京都、奈良、大阪、兵庫、和歌山の7支部）は京都支部をホスト役として、9月3日（金）、ぱるるプラザ京都において、昨年に続き、第2回経営革新事例発表会を行った。

「中小企業の発展」、「中小企業診断士の相互研鑽」、「中小企業診断士業務の理解の促進」を目的とした発表会で、協会会員のほか、各府県の中小企業支援機関・団体等、一般企業から合わせて133名が出席した。なお、出席者全員に、同ブロックが作成した経営革新事例集が配られた。

予備審査を勝ち抜いた4氏が熱のこもった発表を展開し、審査の結果、株式会社トキワの事例を発表した兵庫県支部の穴田氏が、最優秀賞の近畿経済産業局局長賞に輝いた。発表者にはそれぞれ、賞状あるいは表彰状と、副賞として清水焼が贈られた。なお、審査の間を利して、京都新聞社論説委員・小野山正彦氏による講演「無信不立を大切に」も行なわれた。

発表会の後は、参加者による交流会が行なわれ、しばし和やかなひと時を過ごした。第3回は来年、兵庫県で開催する予定。

各　賞	受賞者（敬称略）	事例企業
最優秀賞　近畿経済産業局局長賞	兵庫県支部　穴田喜代嗣	（株）ト　キ　ワ
優秀賞（社）中小企業診断協会会長賞	滋賀県支部　鐘井　　輝	（株）ハウス企画
優秀賞　経営革新事例発表会実行委員長賞	大阪　支部　川崎　依邦	東洋ロジテム（株）
優秀賞　経営革新事例発表会実行委員長賞	福井県支部　下中ノボル	ダイヤロン（株）

〈審査委員〉

委員長：京都大学大学院教授・上總康行氏

委　員：近畿経済産業局・坂本慎一郎氏

委　員：診断協会・新井信裕副会長、芦田茂副会長、下道俊一常任理事

〈後　援〉

近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府商工会連合会、京都府中小企業団体中央会、京都商工会議所、（財）京都産業21、（財）京都市中小企業支援センター

当支部相談役　木津要三先生が永年の功績に対し、中小企業庁長官賞を受賞されました（10/22）

平成16年度　更新研修会　無事終了

京都支部の平成16年度更新研修会は8月から10月にかけて開き、好評裏に無事終了しました。

実務能力更新研修は「介護ビジネス」をテーマとして9月11,12の両日、ハートピア京都で開きました。実務能力研修の研修参加者は78人でした。

理論政策更新研修は8月1日と10月17日に、ぱるるプラザ京都にて開催されました。

8月1日の受講者は104人、10月17日の受講者は99人、計203人が受講されました。

席上実施しました受講者アンケートのまとめの一部を報告します。ご協力ありがとうございました。

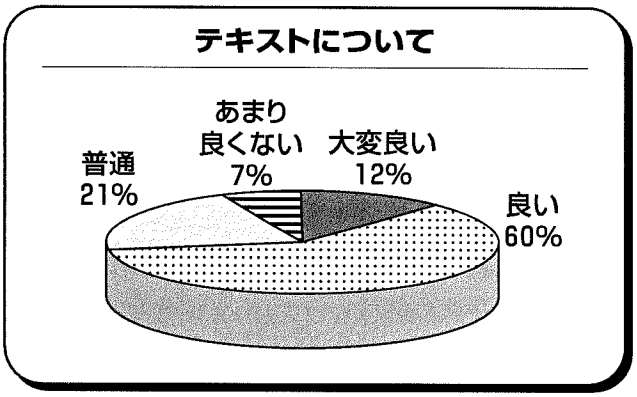
開催時期、研修内容などにつきましては、下記の通り大多数の支持を得ることができました。

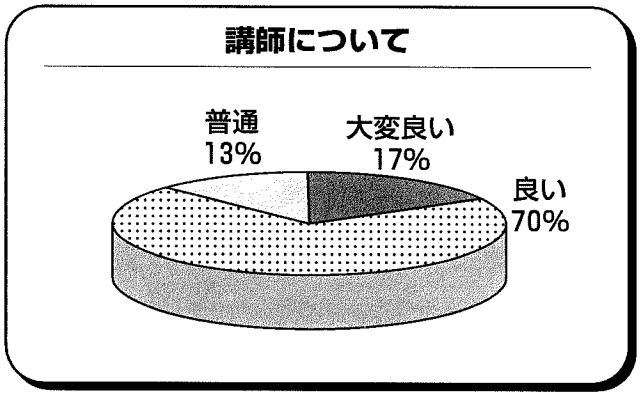
アンケート集計結果

1. 実務能力更新研修

(1) 開催時期については、96%の人が適当であると回答

(2) テキストや担当講師については下図の通り

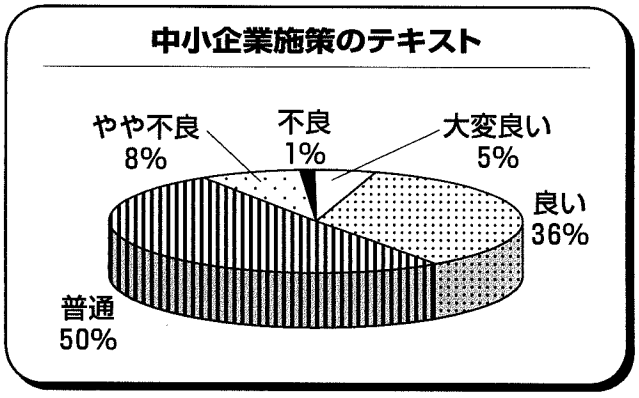


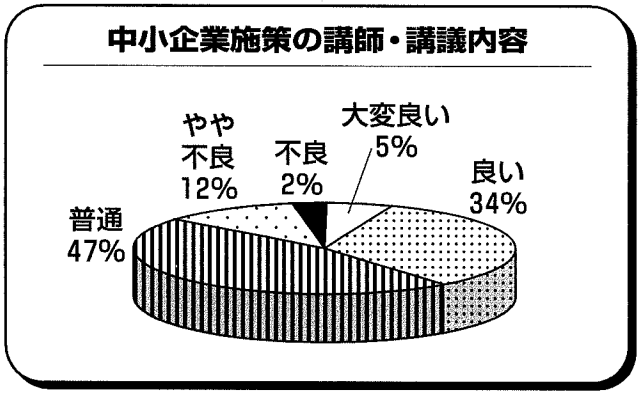


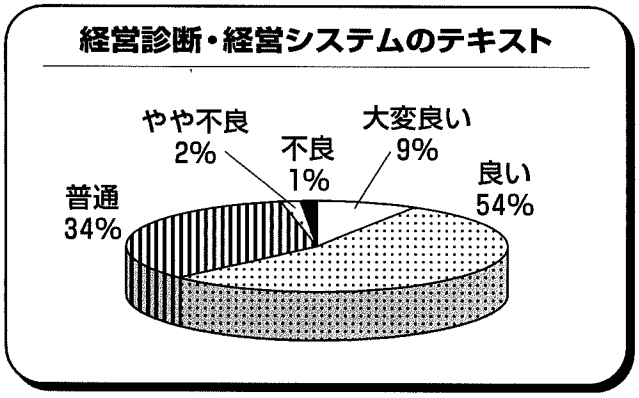
2. 理論政策更新研修

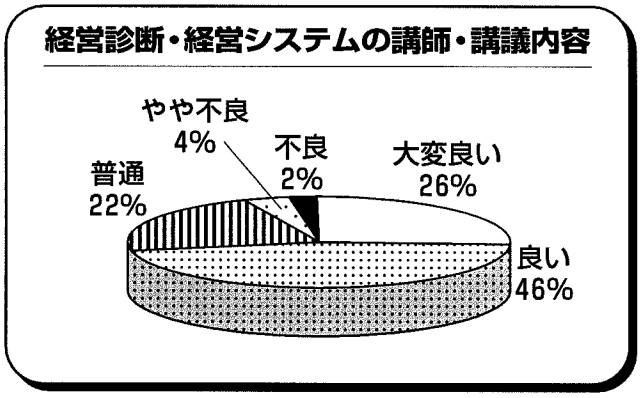
(1) 開催時期については、95%の人が適当であると回答

(2) テキストや講義内容に関しては下図の通り

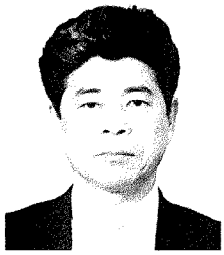








創立45周年を祝して



京都府商工部長
辻本　泰弘

社団法人中小企業診断協会京都支部が、創立45周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴支部におかれましては、中小企業診断制度の普及と推進を図ることを目的として昭和34年に設立されて以来、経営指導の専門家集団として、経営診断をはじめ調査・研究事業、研修事業など様々な事業を通じて京都の中小企業の振興と経済の発展に寄与してこられ、本年めでたく創立45周年を迎えられました。　これもひとえに、安田支部長さんをはじめ歴代役職員の方々並びに会員の皆様方のたゆまぬ御努力のたまものでありまして、深く敬意を表する次第であります。

さて、わが国の経済は、回復に向けた動きが見られるものの、依然として高い失業率や長引く不況など、中小企業の方々にとりましては、いまだ厳しい状況が続いておりますが、こうした時こそ、中小企業の経営課題に対して専門的な知識に基づいた診断や助言をはじめ、創業・新分野進出に関する支援などにおいて良質なコンサルティングを提供する中小企業診断士の方々に寄せられる期待はますます大きくなるものと存じております。

京都府といたしましても、全国初の無担保・無保証人制度「小規模企業おうえん融資」を創設したほか、「あんしん借換融資」を本年12月末まで延長するなど中小企業の事業継続や再生を金融面から支援するとともに、ものづくりベンチャー企業の育成・誘致のためのファンドの創設、更には、商店街等の活性化に向け意欲的な商業者グループを支援する事業など、次の時代を展望する様々な施策を引き続き展開してまいりたいと存じますので、皆様方の一層の御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、社団法人中小企業診断協会京都支部におかれましては、創立45周年を契機として、更に結束を固められ、中小企業の方々への支援を通じた経済活性化のために一層御活躍されますことを期待いたしますとともに、会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

創立45周年に寄せて

京都市産業観光局長
(財)京都市中小企業支援センター理事長
中野　美明

「社団法人中小企業診断協会京都支部」が創立45周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴支部は、中小企業診断士の社会的地位の向上と会員サービスの向上を活動の基本方針として、昭和34年8月に設立されて以来、研修会、研究会を活発に実施されるとともに、京都市をはじめ各種団体との協力により、本市中小企業への幅広いサポート事業を展開してこられ、現在会員数120名を超える団体に発展されました。また、先般は「第2回近畿ブロック経営革新事例発表会」を京都で盛大に開催されるなど、近畿ブロック7支部のリーダー的役割を担われております。

これもひとえに、安田徹支部長を始め歴代役員並びに会員の皆様方が一丸となって活動されてきた成果であり、その熱意と努力に心から敬意と感謝の意を表します。

さて、我が国の経済は、着実に景気回復の動きが見られ、市内中小企業においては、徐々にではございますが、明るい兆しが見えつつあります。

産業観光局におきましては、この景況を確実なものとするため、本年4月に「わかりやすい」「借りやすい」新たな融資制度「京の企業いきいき金融支援」を創設するとともに、貴支部に御協力をいただき京都市中小企業支援センターで実施しております総合相談窓口事業や企業価値創出（バリュークリエーション）支援事業など、本市中小企業に対する支援をはじめ、京都経済の活性化に取り組んでいるところであります。

今後とも、貴支部をはじめ関係団体とのパートナーシップを一層密にして、常に中小企業の方々の御要望にこたえられるよう効果的な支援施策の推進に努めて参りますので、より一層のお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、「社団法人中小企業診断協会京都支部」が記念すべき創立45周年を契機に、ますます発展されますことを祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

45周年を祝して

京都創成大学学長
二場　邦彦

（社）中小企業診断協会の設立50周年、そして京都支部の結成45周年、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

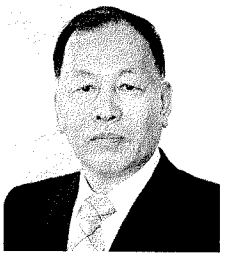
中小企業に対する診断活動は、中小企業施策の重要な柱の一つとして、戦後まもなくの時期から取り組まれ、京都では昭和25年に開所した京都府の産業能率研究所を中心に、全国的にも早い時期から推進されてきました。こうした京都地域での中小企業の診断・指導活動において、貴支部が果たされてきた役割はきわめて大きく、その貢献に対し心から敬意を表するものです。

さて、中小企業をとりまく社会経済環境は常に動いており、それを反映して「中小企業問題」の内容もたえず変化しています。とりわけ現在は、グローバル化、情報化、生活者の意識変化などの中小企業をとりまく環境の質的な変化が進んでおり、このため多くの中小企業が「第二創業」などの大きな企業改革の必要を意識しながらも、どう着手すべきかを迷う状況があります。まさに、中小企業診断士の働きが待望されている時代です。

しかし同時に、こうした社会環境の変化が、中小企業診断士に新しい知識、より高い能力、より組織的な活動などを要請していることも事実です。企業の第二創業を指導するには、企業のおかれている社会経済的状況を把握し、その変化の方向を洞察しなければなりません。また、これまでの成功体験にとらわれ、新しい取り組みへの着手をためらう経営者に対する明快な説明力も必要です。さらに、各業務の改革に当たっては個別課題に対応する専門的な知識が要請されます。

こうした要請に対し、各人が自己研鑽に努めると同時に、異なった得意分野をもつ診断士のネットワークによる対応も必要かと思われます。このような課題を乗りこえ、貴支部がさらに発展されることを期待致します。

独立した経営コンサルタントとしての飛躍を期待して



京都大学大学院経済学研究科教授
上總　康行

さる9月3日、社団法人中小企業診断協会（事務局・同京都支部）が主催する第2回近畿ブロック経営革新事例発表会に初めて参加させていただいた。会場は参加者でぎっしり詰まっていました。いずれの事例も、社長の熱い思い入れとそれを専門知識でサポートする中小企業診断士との二人三脚で苦境を乗り越えてきたという印象でした。審査委員長として4事例を慎重に審査した結果、最優秀賞には特産醸造品の全国通販で急成長した但馬香住町の（株）トキワを指導された穴田喜代嗣氏を決定し、さらに優秀賞には鐘井輝氏、河崎依邦氏そして下中ノボル氏の3人を決定しました。受賞された4企業の社長さんには、この先も中小企業診断士の指導を受けながら早期上場を目指して業績アップに邁進していただき、日本経済の復活を確かなものにしていただきたいと思います。

通常、中小企業では、費用対効果の面から見て、管理会計を本格的に実践するのはかなり難しいとされていますが、この事例発表会では、代表的な管理会計技法がいくつか使われていました。これは新しい発見でした。新聞等では、大手監査法人や著名な経営コンサルタントの活躍が目につきますが、さらには経営コンサルタントとしての中小企業診断士の活躍があること、しかもその将来性が非常に大きいことを知ったのは最大の成果でした。

日本では、品物にはお金を出しても、経営指導などのノウハウにはなかなかお金を出さないという風潮がまだ根強く残っています。中小企業診断士の皆様には、今後さらなる研鑽と実績を重ねられて、顧客とのWin−Winの関係の中で、社会的認知を受けられ、高い報酬をいただける独立した経営コンサルタントとして活躍されることを期待する次第です。

経営とコンサルタントの品質

京都支部　会員
川島　　昇

この2年間は私にとって激動の年であり、大きな地殻変動を自ら起こした。自然現象に見られる無残な姿でなく、我ながら楽しく、気持ちの良い変化であった。正に人生創造!思い起こせば驚愕の転換と自負している。この道一筋とばかり現場の業務から営業へ、そして小規模ながら店長へ、その後、後半は内部で顧客と信用の問題に携わった。一企業で学卒から定年を延長して勤務し、自らの啓発のため中小企業大学校へ飛び込んだ。

受験方式も経験したが、座学での多くの演習、商業や製造業を始めとした5回に及ぶ診断実習は、中小企業診断士そのものに開眼したといっても過言ではない。製造系の品質管理では、前職での内部監査の経験からISO9000審査員補の資格を取得した。診断士登録後プロ特認の恩恵でITコーディネータの資格も取得した。その過程においてITそのものは得手ではないが、経営戦略の何たるかを再び学び新しい手法のナレッジマネジメントやバランス・スコアカード等を学んだ。

さらに京都支部において、コンサルタントの仕事を忘れない程度の仕事をし、経営品質研究会にも属し日本経営品質賞を勉強している。アセッサーを取得されている諸先生方のお話を聞き経営の品質の奥の深さを痛感している。

然しながら、経営が分かっても経営が出来ないのが最大の問題、先に記したように店の責任者としての経営経験はあるものの利益追求の事業部制の出店の一環で、カンパニーにおける資金繰りは一切本社サイドのお任せで、本来の経営には程遠く、その上業績芳しくなく任務は短命に終わった。そういう意味からも経営者の痛みの分かるコンサルタントとして経営の品質をさらに知り、自身の品質もさらに求めて邁進して行きたい。

「実務能力更新研修に参加して」

京都支部　会員
彼島　秀雄

今年の実務能力更新研修は「介護ビジネス」をテーマとして鳥井、松野両先生のご指導の下で活発な研修がおこなわれた。介護ビジネスとは公的介護保険制度で認定された「要介護老人」に対する施設・在宅介護サービスであるが、今後期待される市場でビジネスを提供する立場から如何なるマーケット戦略を指向すべきかを考えるものであった。数年もすれば65歳以上の人口が25%を超える世界一の長寿・高齢化社会への途上にあるわが国が、活力ある国家として存続する為の高齢者の役割は何かを逆に考えさせられた。

社会に入ると現場最前線で先輩から仕事の仕方を鍛えられモノづくりや役務の提供に励み、一人前になるに従い管理監督者や経営者として社会や企業の中心としての使命を果たす。ある年代になると現場や地域社会に帰りスペシャリストとして社会の発展や消費に応分の役割を担う。わが国には残念ながらこの世代間交代を巧く機能させる環境やシステムがいまだ未成熟である。いつまでも老害を振りまき顰蹙を買い、定年で疎外されてボケ老人になるなどの弊害が散見される。

介護ビジネスは元来労働集約型でよい人材を確保するにはコストもかかり収益率の低い業種である。高齢者の90%以上を占め将来の潜在顧客である「元気老人」の参加を求め、快適な「街づくり」やライフ関連事業を視野に入れた戦略的展開が必要である。

「実務能力更新研修を受講して」

京都支部　会員　西河　豊

今回は介護ビジネスがテーマで、事前に資料が送られてきたこともあり、受講者の方々はよく予習されてきたようでした。また、コーチング役の鳥井先生、松野先生の知識提供も非常に深いものがあり、有意義な研修であったと思います。

我が班は嬉しいことに（残念なことに?）僅差の準優勝でした。

プレゼン方法について鳥井先生は以下のように総括され、非常に参考になった。

- クライアントの診断要望項目に沿って提案を出すこと。
  →カレーライスのオーダー受けたらカレーライスを出す
- 提言のレベルや用語（横文字）は相手の経営レベルに合わせること
- 問題点の抽出にあたって、「あたりすぎている問題点」を指摘しすぎると、クライアントが気分を害することがあるので注意すること

企業再生・活性化支援と中小企業診断士

京都支部　副支部長
岸田　道彦

近年中小企業診断士をめぐる環境は大きく変わりつつある。長引く不況と厳しい競争環境の中で、大方の中小企業業績が低迷し、極めて苦しい状況にあることが問題だが、そのため、というべきか、それにもかかわらず、というべきか、診断・支援の受注環境も極めて厳しい。それはつまるところ、中小企業やさらに一般社会にとって中小企業診断士とか経営コンサルタントとかは何をしてくれる人なのか、ということ自体が今ひとつはっきりしていないところに根本の問題があるように思われる。

高度成長期時代、診断士も含めて経営コンサルタントの役割はかなりの部分、経営診断とそれにつづく経営者、管理者ないし一般従業者の教育、レベルアップに置かれていた。だから不況になると教育どころではないというわけで、受注は減った。世間の人からは、不況だからあなた方は商売繁盛でしょう、などとよく言われたが、事実は反対であった。その状況は社会の経営環境が大きく変わりつつある今もあまり変わっていない。そして経営コンサルの受注もまた低迷している。こうしたことからの脱却を図らねばならない。

その一つの契機が今眼前に出てきていると思う。それは企業再生・活性化の機運である。バブル崩壊に端を発し、長引くデフレの影響で過剰の債務や設備等が経営を圧迫する中で金融界も激動し、それがまた企業を圧迫するという悪循環になり、多くの中小企業が存亡の危機にさらされている。こうしたことへの対策として、国の関与により（株）産業再生機構が設立され、またその中小企業版として中小企業庁の指導により各地に中小企業再生支援協議会などが設置され、活動を進めつつあるところであるが、こうした活動の中に、今後は中小企業診断士も大いなる活躍の場を求めねばならないものと考える。但し、それには診断士が今持てる知識や能力をさらに拡充し、この領域で本来期待されるべき知識・能力を深く体得せねばならないだろう。因みに今ざっとしたところで見れば、中小企業を支援するべきスタッフが列挙されるとき、「弁護士、公認会計士、税理士、中小企業診断士」などとされているケースが多い。中小企業診断士は単に「ワンノブゼムで末席をけがしている」ような感じである。これは逆で、実質的には診断士が中心になって各種の「さむらい業」との調整をはかり、再生を進めていくべきものと思う。私が直接体験した一つの事例をご紹介しよう。

昨年の夏頃、たまたま京都市の中小企業支援センターで経営相談の窓口を担当していたところへ、とある中小企業の経営者が相談に見えた。相談の趣旨は、うち続く不況で売上が低迷し、資金に行き詰まってきた。若干の土地資産があるので、これをどう処分・売却したらよいだろうか、といった内容であった。簡単なことのようだが、この中には中小企業再生支援のすべてが含まれている。支援センターの窓口だけですませられるような案件ではない。そこでとりあえずは専門家派遣制度を活用してさらなる診断・調査にはいることにしたが、この内容は一中小企業診断士の能力範囲を超えるものと判断し、たまたま人間関係のあった企業再建組織の不動産専門スタッフに声を掛け手伝ってもらうことにした。

「倒産するにも金が要る」というわけで、世間一般ピンからキリまであるが、平均すれば二百万円ぐらい必要か、とされている。それが弁護士等関係者への手続費用や報酬金に充てられることになるが、それは資産処分の過程で適正に確保される。本件、この段階から後は成り行き上、私が中心となって進めざるを得ないことになった。まず通常の診断から入り、先方へ出向きヒアリング調査や財務分析を行う。ここまでは従来的診断とさして変わらない。変わるのはそれから後である。

こうしたケースでまず必要なのは、その企業についてのデューデリジェンスを作成することである。デューデリジェンスとは、「経済要素精査」とか、M&Aの関係では「買収監査」とか言われているが、簡単に言えば当該企業についての極めて詳細な資産評価を行い、その企業が今どのような状態にあるかを確認するものである。で、不動産専門のS氏は何日か掛けて、問題の土地についての詳細な状況を洗い上げた。勿論、路線価格や実取引価格といったものもあるが、登記簿謄本を全て集め、所有権や抵当の関係を調べ、また銀行との借入残高や中小企業によくある個人的事情との関係もすべて精査する。この会社の場合、その地で父祖の代から続いてきた年商30億円程の家庭用品の老舗問屋で、相続税の未払い分があったり、蔵

の中から昔の刀が何本も出てきたり、かなり離れたところに誰も知らない飛び地があったり、結構いろいろあった。こうした調査とは別に、私は主力の取引銀行へ行き、支店長や担当者に会い、状況を聞いた。この企業、仮にA社とすれば、A社は老舗ではあるものの、7,8人の従業者を使って日々商売をするだけの機能しか持たず、経理や資金繰り管理は全くと言っていい程なされていなかった。銀行もかなり前からこれではだめだと思っていたようであるが、たまたま主力一行取引であったため、内整理を視野に入れながらも、成り行きを見守っていたようである。

このようにして、精査した結果、現在の負債を全て返し、若干の今後の資産を残して何とか切り抜けられるのではないか、との一つの結論が出た。そのためには内整理過程での銀行の協力もお願いせねばならず、ということで、私もその間、ちょいちょいA社や銀行に出向いたりした。しかるに、その時点でさらなる問題が出た。ヤミ金融である。銀行の支店長がA社の事務所で社長と話していたところへ社長宛に電話がかかってきた。横で聞いているとどうも様子がおかしい。で、問いつめると「実は、・・・」ということで、かなりたちの悪い金融業者にカモにされつつあることが分かった。「そのことでお詫びしたい」との電話が私にかかってきたのはその直後である。最初のヒアリングのとき、ヤミ金などはないでしょうね、と念を押し、それは全くありません、との答えに、ああそれならいいですが、と言って済ましたが、結局のところ裏切られ、それで全てがぶちこわしになってしまった。社長の奥さんが、ヒアリングに同席していて、よほど打ち明けようかと思った、というのが後日談で、ともかくそれから後は直ちに弁護士の手に移り、ヤミ金融に対する防御策を講じることになり、閉ざされた店のシャッターには弁護士名のお決まりの「立ち入り禁止」の貼り紙がされ、・・・ということになった。これでA社は分散し、家族はそれぞれ職を探して生きていくことになった。従って、これは再生支援ならず、の例である。

もしヤミ金融がなかったとすればどうだったか。そのような仮定はしても仕方がないが、筋書きとしては、デューデリを作る、それにより清算B/Sを組み、銀行や税理士や弁護士などと調整しながら当座の事業処理を検討する。併せてA社再生へ向けてのビジネスプランを策定する、ということで、ビジネスプランは私が担当することになっていた。

こうした流れを考えるとき、まず最初に案件を受けて立つべきは中小企業診断士であり、次いでいろいろ手配したり調整したりするのも診断士であり、今後へ向かって再生のビジネスプランを策定するのも診断士である、というのが私の持論である。なぜならこれら全てのことは「事業経営」即ち「マネジメント」に関することであり、マネジメントを全般的に理解し、総合的視野で見ていくべき専門家こそ診断士だ、と思うからである。そのために平生から経営について多角的に勉強し、知識や能力を身につけている筈である。

ただ、前記の事例一つをとっても、診断士には知識や理論などと共に実体験や人間関係力、調整力といったものが広汎に求められる。私自身こうした体験の中で自分自身がいかに非力であるかを痛感した。例えばヤミ金一つ見破れないで何が診断士だ、ということ。

中小企業診断士の社会的地位向上は、一つの特定領域の中で「必要不可欠な存在になる」ところから実現されていくものと思う。そのためにはそうした枠組みづくりと推進を診断協会にもお願いしたいし、何よりも個々の診断士が切磋琢磨して自己の知識や能力やキャリアを一段、二段、高めていくことこそが大切なことと確信するものである。

「小さな会社を強くする技術」
— 社長だけができる実例45! —

山崎忠夫著　創元社　定価(税込み)¥1,470

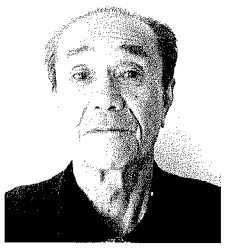
内容紹介

中小企業は激変する経済環境の中で生き残りを図っていかねばならない。ただ今までと同じやり方、その延長線上の改革程度では現状を乗り切ることはできない。

本書は、経営コンサルタントとして企業の現場をウオッチングしてきた著者が、中小企業の成功事例、失敗事例をベースに、経営者が必ずチェックしなければならない重要ポイントを明示したもの。

21世紀に生き残る強い企業であるために何をなすべきか、その技術を解説する。

京都支部創設45周年に思う



京都支部　元支部長
黒崎　徳之助

支部長	生年	在任期間
大木　勇	1890	1959/8～1970/5
中谷　弥太郎	1900	1970/5～1980/5
黒川　倉市	1911	1980/5～1990/6
黒崎　徳之助	1927	1990/6～1995/5
品川　弥太男	1927	1995/5～2002/4
安田　徹	1942	2002/4～現　在

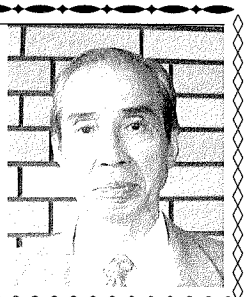
私は、1956年税理士試験に合格し、翌年春、税務会計事務所を開設したが、その受験勉強中も、当時欧米の進んだ経営に関する学説やノーハウの方が面白く、関心を持っていたが、1958年夏、一カ月間の長期研修が大阪で開かれ、夫々第一線の先生方の講議と水野鉄蔵先輩の実習により、翌年中小企業診断員の登録を受け「経営も解る若い税理士」と評判も良く順調に関与先も伸びた。

当時協会本部は、全国に支部組織を作る方針で、これを受けて、府会議員でもあった大木勇先生を中心として、1959年8月都ホテルで、京都支部の創立総会が開かれ、滋賀を含む100名余で誕生した。

以来45年間、歴代支部長は左の通りであり、私は、1959年から理事に、同72年から常任理事に、同80年から黒川支部長の総務担当副支部長として、会議・登録更新研修・「診断京都」の発行などに力を入れたが、特に1984年10月から22名の賛同を得て「月例経営研究会」を発足、今日迄回を重ね、京都支部の誇れる事業として定着。又1986年からは、診断テーマ毎の小集団活動による継続研究に発展した。

4代目支部長就任後は、1992年11月　一般公開のシンポジウム「大規模小売店の新設で京都の商業地図がどう変わるのか」を開き、1994年9月にはルビノ京都堀川にて、支部創立35周年大会を開き、記念誌の発行も出来ました。またこの間、1982年から京都府特別経営指導員、1990年から商工会議所商工調停士など務め、1995年　京都府産業功労者表彰や、1995年の春には黄綬褒章を受け、診断士ライフの最終が飾れましたことに深く感謝するとともに、関係各位の益々のご発展を祈念します。

会員のための支部活動の充実を目指して



京都支部　前支部長
品川　弥太男

私は平成7年5月有徳の黒崎先生の後を引き継ぎ支部長に就任しました。予てよりの支部の懸案は①事務所を支部活動の拠点として会員の参加しやすい京都市の中心部の交通の便利のよいところに独立事務所として設置すること。　②中小企業診断士と京都支部の知名度と存在感を高めるためPRを強化すること。　③受託業務を積極的に開拓するために有料の支援業務の受託契約ができる支部と一体の主体性のある別組織を作ること。の3点でした。

①については京都産業会館に入居を目指しましたが、すぐには入居できません、私個人でコスモクラブへ入会して、近くに手がかりを掴み、とりあえず四条地下鉄ビル5Fへ入居(10年4月)などを経て、ようやく平成13年4月に入居の目的を達成できました。

②については機関紙「診断京都」の充実と増刷配布をしましたが船越先生に編集をお願いしていましたので本部でも高い評価を頂いていました。また、この配布に木津先生には大変お世話になりました。支部のパンフレットの作成配布もしましたが、新心学塾のイベントは支部の高い志向のよいPRになったと思います。

③については岸田先生の献身的なお骨折りにより協同組合京都府中小企業診断士会を平成11年12月にやっと発足させることができました。

平成14年までの7年間、凡庸な私が役員や会員の皆様のおかげで何とか支部の活動し易い体制を整えて安田支部長にバトンタッチができたこと感謝です。私に課された懸案を何とか果たすとともに役員の若返りも果たせたと思っています。ご協力いただいた役員および会員の皆様にお礼を申し上げるとともに支部活動へ会員の皆様の一層のご参加を期待します。

今、中小企業診断士に求められるもの

京都支部　現支部長
安田　徹

中小企業診断士は中小企業経営者のそばにいて、その相談相手となり、種々の分析・提案・助言をすることが大きな役割であると考えます。中小企業経営は、明日の経営のために今日どのような手を打つかが大切です。特に変化の激しい今の時代では、事業を取り巻く環境がどのように変化するかを読むことが求められます。

新しい経営理論や手法を以って経営計画・提案をしても、経営環境の変化が適切に組み込まれていなければ意味がないでしょう。少なくとも「当たらずとも遠からじ」といった環境予測が必要でしょう。高度経済成長の時代は、適当に右肩上がりの成長を組み込んでおけば誰もが納得していましたが、今はそういうわけには行きません。SWOT分析で経営環境を分析し、戦略・計画を練ることはあっても具体的に経営環境を予測する手法について語っているものをあまり見かけません。

そこで中小企業診断士の大きなテーマとして、いかに先を読むか、どのように環境予測をするかがあり、これが一つの研究領域として確立されてもいいと思います。先を予測することは、けっして占い師だけの領域ではないでしょう。

変化をするのは、必然と偶然があります。また、変化にはいくつかのキーワードがあります。例えば、グローバル化、少子高齢化、IT化といったことです。ここでは深入りせずにそうした研究をしませんかとだけ提案します。

私が言いたいことは、現在のように変化が激しく、その要因が複雑であるとき、中小企業診断士が明日の経営の指針を提案できなければ意味がない、いいかえれば「中小企業経営企画士」にならなければいけないと考えます。私はそうなりたいと思います。

平成16年度下期の事業予定

事業名	開催日、期間など	会場	時間など	テーマ	責任者	講師、担当
支部研修(1)	11月20日	池坊学園	13:30~15:30	フランチャイズ事業展開における診断士の役割	山崎	恩村
支部研修(2)	来年1月21日	ホテルオークス京都	15:30~17:30	中小企業における経営品質向上の取組みについて	山崎	経営品質研究会メンバー
調査研究	8/1~1/31		適宜	大学発ベンチャーの研究	玉垣	会員5名
経営革新支援研究会	年10回	支部事務所	18:30~20:00	自由	村上	原則会員
IT研究会	年5回	支部事務所	10:00~13:00	伝統技能のDB化を図る	中路	所属会員
経営品質研究会	年7回	支部事務所	18:00~20:00	経営品質向上の手順完成	木津	所属会員
診断協会50周年記念事業2004京都フォーラム	12月10日	池坊学園	14:30~19:00	講演とパネルディスカッション	玉垣	理事
京都産業21主催のビジネスパートナー交流会出展	来年2月8日~9日	京都国際会館	2日間	無料経営相談	玉垣	有志会員

ストレスはスポーツ吹き矢で「シュパッ」と解消！

京都支部　会員　坂田　慎一
日本スポーツ吹矢協会 公認指導員（参段）

京都支部に移り早いもので二年が過ぎました。研修会や研究会で色々なアドバイスを頂き、お蔭様で京都での生活を心から楽しんでおります。自己紹介の中で「趣味は吹き矢です」とお話しすると、忍者のやる吹き矢ですか？子供の頃縁日でやった吹き矢ですか？などと、興味をもたれる方が多いのですが、京都ではまだ「スポーツ吹き矢」自体を知る人は少なく、この機会に特徴と内容をご紹介させていただきます。

生命を維持する上で最も大切なのは「呼吸」です!!日常生活ではあまり意識しませんが、吹き矢は、その呼吸に意識を置き、矢で的を射抜くというゲーム性を楽しみながら、「腹式呼吸」を体得する事が出来ます。腹式呼吸による深い呼吸は、全身の血行を良くして細胞の活性化を助け、免疫力を強化して自己治癒力の向上にもなると言われています。また、ストレス解消や集中力のアップも「スポーツ吹き矢」の魅力といえます。

- 吹き方は：（6つの動作）立つ、矢を入れる、腹式呼吸、的をみる、吹く、気を収める
- 道具は：筒（長さ120センチ）、矢（長さ20センチのプラスチックフイルム製）、矢入れ、的（ウレタン製）、的紙（直径6センチ、12センチ、24センチの同心円）
- ゲームと得点は：1ゲーム:5本の矢を吹き、4ゲームの合計点で競う
（7点ゾーン×5本=35点満点で、それぞれ5点ゾーン、3点ゾーンの合計得点）

スポーツ吹き矢は年齢を問わず楽しめるので、これを機会に是非一度御体験下さい。

診断士に必要な集中力の強化、また、ストレス解消法の一つとしてお勧め致します。

通訳ガイド（観光ガイド）の楽しみ（ほくそ笑み）

京都支部　副支部長　玉垣　　勲

41歳で「通訳案内業」の資格を取得した。信用金庫勤務で国際部所属の時に英語の学習を集中的にして、3回目での合格であった。地域金融機関勤務であり、その後、国際部を離れ英語は実務上必要なくなった。48歳の時、ある人から「京都駅八条口」で活動している外国人観光客相手のボランティア団体の存在を聞かされ、その団体「京都SGGクラブ」に参加を申し込んだ。3ヶ月間のトレーニングを受けての入会である。

活動の拠点は、京都駅JR東海の「八条口総合案内所」の一角。登録メンバーは100名弱で年中無休での活動。サラリーマン時代の10年余りは月3回、土曜日に案内所に座る。窓口へ来られる方の質問は様々。駅構内のこと、短時間の京都散策、数日間の滞在での観光ガイド、宿泊案内などであるが、腹痛、皮膚のかぶれで薬局、医院まで付き添うこともある。新幹線車内での忘れ物、パスポートなどの紛失では、駅職員、最寄の派出所警察官と連携する。

数年前から、拠点での受付案内のみならず「同行ガイド」を手がけるようになった。依頼者との当初のやりとりはインターネットによる。宿泊のホテルなどでおちあい、先方の要望しだいで寺院、神社、庭園さらに「西陣織会館」などへも廻る。京都市など行政の要請で、個別の伝統ある企業、京店を時に訪問する。「お茶席」でお茶の作法の説明には少々手こずった。来訪者は、以前は欧米系主体であったが最近はアジア諸国など多くの国の方が立寄られる。色々のお国柄が見て取れて楽しい。

メンバーは女性が7割、男性の平均年齢は60代半ばで定年退職後の「有益な余暇活動」となっている（家に閉じこもっていてはかーちゃんがうるさいから、との弁もある）。多くの来訪者からありがたがられ、やりがいもある。語学のスキルもそこそこ必要であるが、大切なことはもてなしの心（ホスピタリティ）。「一顧を照らす」この活動、細々ながら今後も続けたい。

中小企業診断協会創立50周年記念 「2004京都フォーラム」にご参加を!!

1. 日　程　日　時　16年12月10日（金）14時30分～17時（2時間30分）
　　会　場　池坊学園　（四条室町下ル西側）
　　主　題　新時代の中小企業の挑戦～経営革新と経営承継～
　　定　員　150名
　　形　式　講演とパネルディスカッション
　　参加費　無　料
　　（交流会）17時15分～19時　定　員　50名　会　場　池坊学園　参加料　5000円

2. 後 援 先
　　京都市中小企業支援センター　京都産業21　京都商工会議所　京都府中小企業団体中央会
　　京都銀行　京都中央信用金庫　京都信用金庫

3. 京都フォーラム、プログラム
　　記念講演　14時35分～15時30分（55分）
　　演　　題　経営革新と経営承継
　　講　　師　河合保弘先生（司法書士、社会保険労務士）
　　パネルディスカッション　15時40分～17時（1時間20分）
　　テ ー マ：「新時代の中小企業の挑戦」
　　パネラー：司法書士，社会保険労務士　河合　保弘 氏
　　京都カーゴ軽自動車運送協同組合理事長　小川　勝生 氏
　　（株）島津水研代表取締役社長　島津　明仁 氏
　　（株）セイワ工業専務取締役　東　憲彦 氏
　　診断協会　京都支部　支部長　安田　徹 氏
　　コーディネータ：診断協会　京都支部　副支部長　玉垣　勲 氏

経営革新支援研究会（7～10月）〈第2水曜日〉

日　時：7月14日（水）　午後6:30～8:00
講　師：玉垣　勲氏（支部会員）
テーマ：世に出ないコツ、人生後半のデイトレーダー日記など～一度聞いて二度と聞きたくない人（診断士）の話～
内　容：サラリーマン・出世しないコツ、家庭第一・仕事第二、人生の転機（デビューなど）、躁鬱症候群のこと、人生後半を好きに生きる方法、診断士の虚像と実像、独立診断士と勤務診断士の損得勘定

日　時：9月8日（水）　午後6:30～8:00
講　師：岡原　慶高氏（支部会員）
テーマ：新米診断士奮闘記
内　容：昨年4月に独立してからの1年5ヶ月間の仕事の中で感じたことや新たな仕事に取り組む中での体験したことなど

日　時：10月13日（水）　午後6:30～8:00
講　師：古川　浩氏（京都府職業能力開発協会）
テーマ：顧客開発のための情報提供について
内　容：新規顧客開発の切り口となる、または日常のコンサルティング活動に利用できる職業能力開発協会のサービス情報等

IT研究会　平成16年度上期活動報告

第1回　6月4日
・京大大学院と「西陣織伝統技術DB化」について技術提携
・DB化のため、西陣織作業工程分析にIPO分析手法を用いて取り込むことにした

第2回　7月17日
・西陣織作業工程、京染め工程のIPOについて研究
・大堀氏作成の西陣織及び京染のIPO図をもとにその作業工程の研究を行った

第3回　9月15日
・企業実例調査:岱崎織物（株）訪問・工場見学
・次回は川島織物（株）を訪問・調査予定

経営品質研究会 平成16年度上期活動報告

第1回　5月14日
・成果目標や今後の取り組みステップについて協議
・事例研究のため経営品質賞中小企業部門受賞企業8社選定

第2回　7月9日
・8社のアセスメント項目について調査結果記入様式決定

第3回　8月20日
・各自分担して作成した各社ごとに8分類64項目について特徴やポイントの内容について検討

第4回　9月15日
・二次データとして要約方法の決定と所定の様式にまとめるよう分担決定

Chat de Chat

♪寒い日には、お風呂が一番～♪

今年は11月7日が立冬で、これから寒い日々がやってくる季節となりました。こんな時、やはり体を暖めるのには、お風呂が一番ですよネ～!

お風呂の入り方にも色々あって、心臓の弱い人やヘトヘトの時は水圧が心臓の負担となってしまう全身浴よりも半身浴や腰湯が、また、慢性胃炎の方はぬるめの湯に長く入り、空腹時に痛む潰瘍系の方は少し熱めの湯でサッと入るのがオススメなんだそうです。

なお、激しい運動直後や飲食後の入浴は却って疲れが取れにくかったり、心臓や消化器への負担が大きいので避けた方が良いようです。

また、二日酔いの時はコップ1～2杯の水を飲んでからぬるめの湯で少し長めに入浴して汗をかけばスッキリしますし、朝眠い時は熱めの湯で、交感神経を刺激してやれば、シャキっとします。

一方、お風呂によるリラックス感を効率よく得るためには、「湯温」と「入浴時間」の組み合わせが重要で、人によって差はあるでしょうが、「湯温」は40度、「入浴時間」は14分程度が心臓に負担が少なく副交感神経が優位となって、リラックスを表すα波の出現がピークとなるんだそうです。

気持ちイイ～お風呂でのリラックス･･･お湯だけにHOTしますよネ?

(^^;)　(出典:快適風呂の時間HP他)

支部会員　上田　清

会員の異動（H16年4月～10月）

●入会者　7名

石川　隆典
小西　正伸
野崎　敏彦
松井　伸吾
名児耶孝明
川村　　敏
成岡　秀夫

●転出者　2名

小西　正伸
中島　伸樹

●現支部会員数

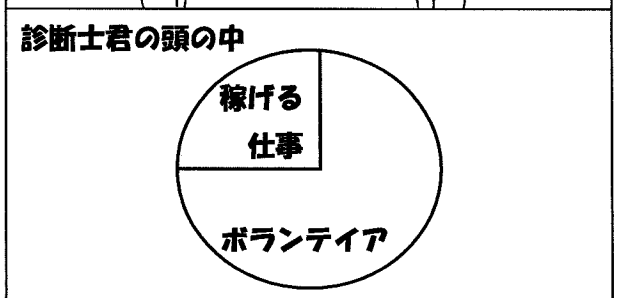
〈H16/10〉124名

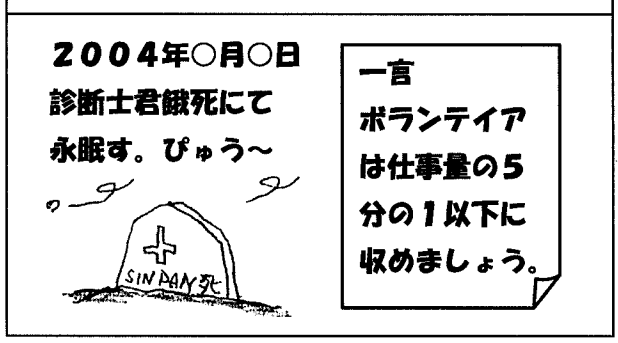
編集後記

創立45周年記念号関係各位のご協力に感謝いたします。とにかく予定通りの期限に記念号を発刊できました。ご協力感謝します。　（編集主幹　松田）

△　診断士君　▽

～ ボランテイア ～ BY 西河 豊





診断京都　No.77

2004年11月00日発行

社団法人中小企業診断協会京都支部

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東
京都産業会館内
TEL（075）213－7980
FAX（075）213－7981
メール smecakyo@mail.joho-kyoto.or.jp
ホームページ http://www.joho-kyoto.or.jp/~rmckyoto
印刷所 (株)大美堂印刷社　TEL（075）314－3111
FAX（075）314－3122